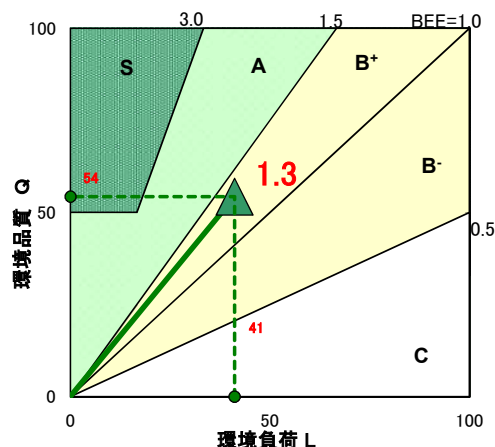


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観
建物名称	介護付き有料老人ホームさわらびⅡ	階数	地上4F
建設地	熊本市北区龍田町弓削字西ノ上865	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準工業地域	平均居住人員	75 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年2月 予定	評価の実施日	2012年6月15日
敷地面積	3,068 m ²	作成者	伊東 正太郎
建築面積	898 m ²	確認日	2012年6月16日
延床面積	2,513 m ²	確認者	吉永 拓郎

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.3

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

82%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

84

評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

78.0

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

81.2

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

90.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

91.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

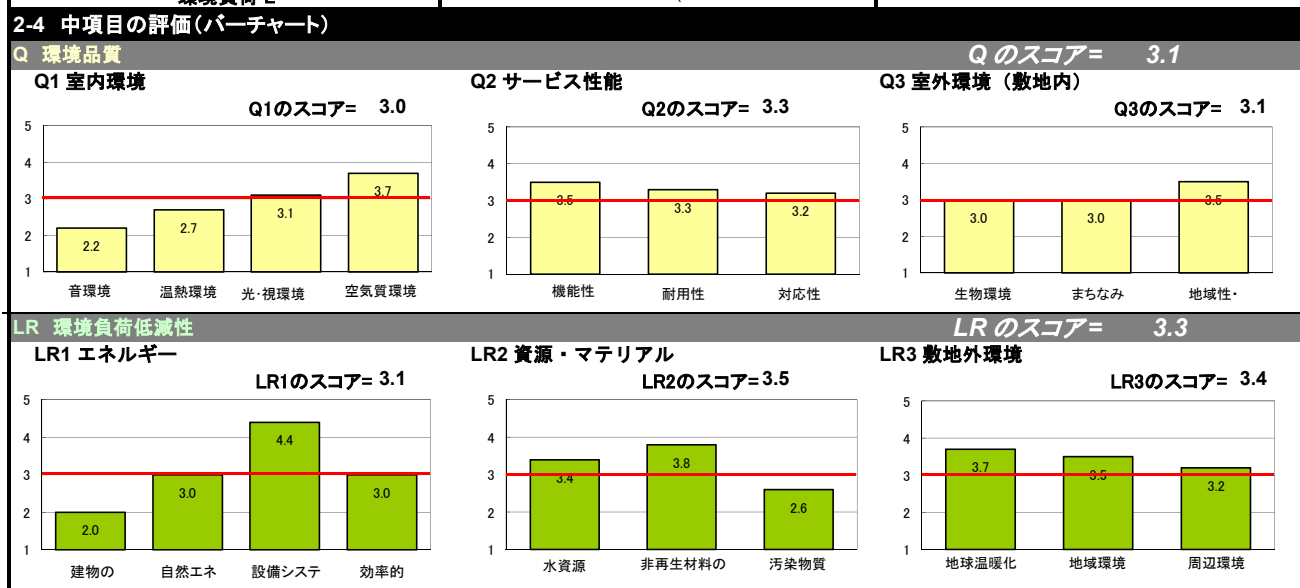
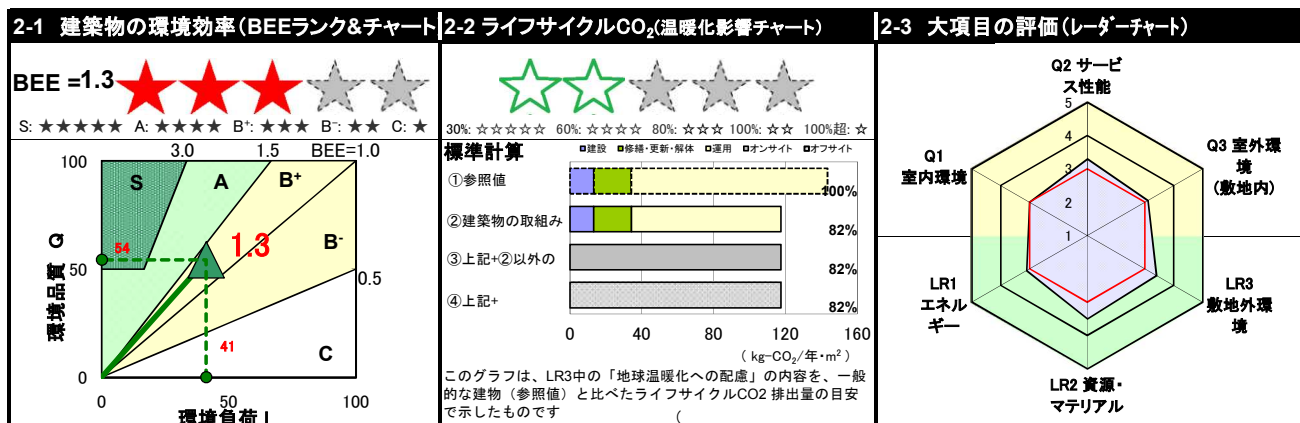
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	介護付き有料老人ホームさわらびⅡ		階数	地上4F
建設地	熊本市北区龍田町弓削字西ノ上86		構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準工業地域		平均居住人員	75 人
気候区分	地域区分Ⅳ		年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	病院		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年2月	予定	評価の実施日	2012年6月15日
敷地面積	3,068 m ²		作成者	伊東 正太郎
建築面積	898 m ²		確認日	2012年6月16日
延床面積	2,513 m ²		確認者	吉永 拓郎





■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
介護付き有料老人ホームさわらびⅡ新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版) 2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			0.40			3.0
1 音環境		2.2	0.15	2.2	1.00	2.2
1.1 騒音	共用部: 50dB、住居部: 40dB	3.0	0.40	4.0	0.40	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	4.0	1.00	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	1.0	0.40	
1 開口部遮音性能		1.0	0.40	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		1.0	0.60	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		3.0	0.35	2.4	1.00	2.7
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		3.0	0.25	3.3	1.00	3.1
3.1 昼光利用	ホール: 3.6%、居室: 2.2%	4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策	F☆☆☆☆の採用	4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.0	0.30	3.6	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理	建物全体が禁煙	5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.0	0.40	4.4	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	B以上を使用	3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.3	0.31	-	-	
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.9	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	タイル(30年) GL工法 PB=12.5mm(20年)	3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		5.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備	地上設置、非常用発電設備	3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.3	0.29	3.0	1.00
3.1 空間のゆとり			3.4	0.31	3.0	0.50
1	階高のゆとり	共用部:0.19、住居部:0.46	3.0	0.60	3.0	0.60
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	3.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-
1	空調配管の更新性	構造部を痛めることなく、修繕・更新できる 仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。 仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		4.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	水平投影面積、緑被率、舗装面積率、外壁対策面積率	4.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			2.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		LED照明、高効率空調の採用	4.4	0.30	-	-
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=23.9%	4.0		-	-
集合住宅の評価			3.0		-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1	節水	節水型・省水型設備の採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	集成材、タイル、便器	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	20%程度	4.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	軽天、軽鉄間仕切、フリーフロア、GL工法	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		2.5	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		高効率の設備機器を採用	3.7	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善	隣棟間隔、壁・地表面対策	4.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2	風害・砂塵・日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

産廃処理場の裏側にある三菱電機社宅跡地に今回計画した。
前面道路は近隣の小学校の通学路にもなっている。現況4.0m程度の幅員であるが、安全性を考慮し6.0m程度にセットバックしてフェンス等の構築物を設けた。部分的に出来る法面は芝貼りを行う。

Q1 室内環境

現場吹付けのウレタン系発砲断熱材を使用し、断熱性、遮音性能の向上に努めた。
居室部分等ほとんどの部分をプラスターボード12.5mm+9.5mmの両面貼りとし、その間にグラスウールを充填し断熱性、遮音性能の向上に努めた
2～4階のデイルームはカーテンウォールを使用し外部への開放性、及び採光を考慮した。
自然換気をメインとし、自然換気で補えない部分は機械換気を導入した。

Q2 サービス性能

床材を桧板貼りとし、腰壁に杉板を貼ることで木の温かみが出るよう配慮した。
また、建物内を通して段差を無くし、車椅子等の通行がスムーズに行えるように配慮した。
更に、居室部分や、ほぼ全ての扉に対して車椅子利用者が容易に操作出来る引き戸タイプとし、開閉後は半自動で閉じるタイプとした。

Q3 室外環境（敷地内）

準工業地域であるが近隣には住宅も多くあり、隣接地には同種の老人ホームも建設してあるので、周囲との調和を考慮した色彩計画とした。
既存の樹木を有効利用すると共に、植栽等を行い緑化計画を十分に満足させるものとした。

LR1 エネルギー

主要分の照明器具はLED照明とした。

LR2 資源・マテリアル

リサイクル材の使用計画なし。
雨水等の再利用の計画なし。

LR3 敷地外環境

近隣には住宅や小学校もあるので周辺にマッチしたデザイン、色彩計画とした。

その他

特になし

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

介護付き有料老人ホームさわらびⅡ新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		83.7
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				78	0.40	31.20
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				81.2	0.20	16.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				90	0.20	18.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	4.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				91.5	0.20	18.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数